No. 1416

対話継続への道

—南北サミット—

世界の首脳22人が参加した南北サミット（協力と開発に関する国際会議）出席の鈴木首相は現地時間の10月21日、メキシコのカンクン国際空港に到着した。空港では共同議長国であるメキシコのロペス大統領が一行を出迎えた。カンクン入りした鈴木首相は休む間もなく精力的に首脳外交を展開、まず、中国の趙首相と会談、日本が中国の近代化推進に今後とも協力することを確認。この後サウジアラビアのファハド皇太子と会談、22日朝にはロペスメキシコ大統領を表敬訪問、サミット成功のため積極的に協力することを約束した。厳戒体制下の会議場に当てられたシェラトンホテル。全体会議ではロペス大統領のあいさつのあと各国首脳が南北問題に対する基本的な立場を表明、13番目に演説した鈴木首相は相互依存と連帯を強調するとともに国連包括交渉（GN）の早期発足を呼びかけた。意欲的に首脳外交を進める鈴木首相はニエレレ・タンザニア首相、インドのガンジー首相などと次々に個別会談を重ね、積極的に南北問題に取り組む姿勢を示した。２日間にわたる日程を終えた南北サミットは10月23日夜議長サマリー（総括）を発表して閉幕、最大の焦点だった国連包括交渉は「早期開始が必要」との表現にとどまった。

生の不安—愛と死

—ムンク展—

東京国立近代美術館では、今エドワルド・ムンク展が開かれています。ムンクはノルウエーの生んだ、近代美術における表現主義の先駆者で、生の不安——愛と死をテーマに独自な画風を確立しました。明治44年、雑誌「白樺」でムンクが初めて日本に紹介されて以来80年、関係者の５年間に渡る交渉によってやっと開催されたこのムンク展は、現在わが国で望み得る最高のものといわれています。

日本の防衛力

訪衛問題への関心が高まるなか、11月１日、自衛隊の観閲式が埼玉県朝霞市の陸上自衛隊の訓練場で行なわれた。鈴木首相は、自衛隊の最高指揮官として「我が国が西側の一員として防衛努力を進める必要性」を改めて強調した。今回の観閲式は昭和25年の警察予備隊の発足以来31回目、5300人の隊員、七四式戦車など車輌300が参加した。

一方、11月３日には海上自衛隊の観艦式が相模湾で行なわれた。鈴木首相はヘリコプターで、観閲艦「しらね」に着艦。護衛艦など艦艇45隻が参加し、時速25キロ前後のゆっくりしたスピードで観閲艦に接近、次々にすれちがい、海上の大絵巻を展開した。